

平成 28 年度大台ヶ原自然再生推進委員会 議事概要

◆日時：平成 29 年 3 月 8 日（水）

◆場所：ホテルアジール・奈良

◆参加者

【委 員】

氏 名	所 属	役 職	備考
井上 龍一	奈良教育大学附属小学校	教諭	
川瀬 浩	（公財）日本野鳥の会奈良支部	顧問	
木佐貫 博光	三重大学大学院生物資源学研究科	教授	
佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館	主任学芸員	
高田 研一	高田森林緑地研究所	所長	
高橋 裕史	（国研）森林総合研究所関西支所 生物多様性研究グループ	主任研究員	ご欠席
高柳 敦	京都大学大学院農学研究科	講師	ご欠席
鳥居 春己	奈良教育大学自然環境教育センター	特任教授	
野間 直彦	滋賀県立大学環境科学部	准教授	ご欠席
日野 輝明	名城大学農学部	教授	ご欠席
日比 伸子	橿原市昆虫館	統括調整員	ご欠席
前田 喜四雄	奈良教育大学	名誉教授	ご欠席
松井 淳	奈良教育大学教育学部	教授	
村上 興正	元京都大学理学研究科	講師	
横田 岳人	龍谷大学理工学部	准教授	

※五十音順

【事務局】

近畿地方環境事務所

（業務請負）一般社団法人 日本森林技術協会

◆委員会の概要

大台ヶ原自然再生事業における平成 28 年度業務実施結果の報告および平成 29 年度業務実施計画を示し、委員等に助言を頂いた。

【議事次第】

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議題

- (1) 平成 28 年度ワーキンググループ開催結果の報告
- (2) 大台ヶ原自然再生事業における平成 28 年度業務実施結果
- (3) 大台ヶ原自然再生事業における平成 29 年度業務実施計画(案)
- (4) 平成 29 年度大台ヶ原自然再生推進委員会及び関係ワーキンググループの開催予定(案)
- (5) その他

4. 閉会

【主な意見】

(1) 平成 28 年度ワーキンググループ開催結果の報告

資料 1「平成 28 年度大台ヶ原自然再生事業 検討状況の概要」について

- 「大台ヶ原ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第 4 期）」（以下、「第 4 期計画」と記載）の案は、自然再生事業と密接に連動するものであり、この委員会の重要な関心事である。今回、地元説明用の概要版しか資料に入っていないが、本来は修正作業中であっても計画案自体を会議資料として配布するべき。第 4 期計画が確定される前に再確認できるよう各委員に案を送付されたい。
（事務局回答）各委員に確認するため、第 4 期計画の案を送付する。

(2) 大台ヶ原自然再生事業における平成 28 年度業務実施結果

資料 2：「大台ヶ原自然再生事業における平成 28 年度業務実施結果」

「1. 森林生態系の保全・再生」「2. ニホンジカ個体群の管理」について

【ニホンジカ個体群の管理について】

- 第 4 期計画は、「個体群管理」「被害防除」「シカを増やさないための生息環境整備」の 3 本柱を軸に作成したので、その辺りのことをもう少し説明すべき。
- カメラトラップ調査では、生息密度は、6～8 月が高く、糞粒法による密度推定を行っている 10 月は低いという結果が示されている。実際に植生に与える影響は春～夏が大きいので、その時期の密度で管理することを考えなければならない。
- 来年度の目標捕獲頭数 113～135 頭というのは、周辺地域からの侵入に加え、取り残しやクマによる捕食の影響も考慮して、多めに設定していることを説明すべき。

【くくりわなにかかったシカのツキノワグマによる捕食の問題について】

- これまで延べ 1.2 万個設置してきたくくりわなで、平成 27 年度までは捕食が起こら

なかったからといって、捕食の確率が低いとは思えないほうが良い。平成 28 年度に立て続けに 2 回発生している。クマは餌に対する執着が強いので、今後も起こる可能性が高い。

- 公園利用者からビジターセンターにクマの目撃情報は寄せられるのか。
(事務局回答) 寄せられている。情報は近畿地方環境事務所の HP にも載せている。

資料 2：「大台ヶ原自然再生事業における平成 28 年度業務実施結果」

「3. 生物多様性の保全・再生」について

【訪花昆虫調査結果について】

- 「シカの影響により下層植生が衰退し、草本植物を好んで訪花するハナバチ類が減少している可能性がある。また、シカの影響を大きく受けていない木本植物を好んで訪花する甲虫類はそれほど影響を受けていないものと考えられる」という調査結果を本編に入れること。

【ササ類・コケ類のメッシュ調査について】

- コケ類の被度が低下している箇所について、乾燥によるものとするのは、短絡的な気がする。なぜコケ類の被度が低下したのかは、もう少し解析をして科学的に判断できるようにしていく必要がある。
(事務局補足) コケの衰退の原因は必ずしも乾燥化やエロージョンだけではないと考える。多角的な要因を見る必要があると認識している。
(委員補足) 例年のササ調査に付随してコケのデータをまとめてみただけのものなので、衰退原因まで考察できる段階にはない。
- モニタリングをする際には、その結果を何に使うのかよく考えたうえで、有効に使えるように計画すべき。

【植物相調査について】

- 防鹿柵内の植物種数が平成 21 年よりも平成 28 年の方が増加しているが、消失した種もあるはずだ。増加・減少した種を出してもらわないと一つ一つの種への影響が見えてこない。一回データをまとめて専門家による総括の機会を設けたらどうか。例えば過去に消失した植物種がどのぐらいの期間で出現したとか、シカの嗜好植物と忌避植物について柵内外でどうなったかなど分析することにより防鹿柵の効果を評価できる。

【地表性甲虫類調査について】

- 地表性甲虫類の調査について、防鹿柵内・外や植生タイプによる出現種組成に変化がないという従来と違った傾向が出ている。原因は何と考えられるか。
- 今の植生区分は森林立地と明確に対応していない。森林立地を明確に区分したら地表性昆虫類の住み分けがかなりきれいにわかると思う。森林立地の区分は将来課題で今回は調査結果に一定の結論が出たものとする。どんな要因が住み分けに影響しているのか分析できるのか。

（事務局回答）調査実施前に地表性甲虫が専門の日比委員にヒアリングしたところ、地表性甲虫類は、地表の前植生の状況・コケ類の被覆状況・ササの侵入、リター層と表層土壌のやわらかさや構造等に影響を受けると伺ったため、本年はとりあえず基礎データ収集のための調査をした。日比委員にもこのデータを見ていただき、結果を判断したい。

資料2：「大台ヶ原自然再生事業における平成28年度業務実施結果」

「4. 持続可能な利用の推進」について

【ガイド制度の検討について】

- ガイド制度導入にかかるこれまでの検討経緯についても触れておいたほうが良い。
「資格」に近い登録制としたこと等。
- 大台ヶ原登録ガイド制度については、大人を案内するには、この内容で問題ないとする。一方、子供を対象とした自然環境教育等の目的でガイドする場合は、それに応じたガイド資格が必要となるのではないか。今後の検討課題としていただきたい。
- 大台ヶ原登録ガイド制度におけるガイド登録については、「資格認定等の写し」が必要とされているが、具体的にどのような資格を想定しているのか。
（事務局回答）自然ガイドの資格認定証の写しとしている。自然ガイドという大枠で捉えると多くの資格があるが、本ガイド制度においては、公益社団法人日本山岳ガイド協会の「自然ガイドステージ1」が適している資格の一つと考えている。
- 大台ヶ原登録ガイド制度を運営していくための費用（原資）は、誰が負担することになるのか。
（事務局回答）ガイドの登録料（8,000円／3年間）が原資。
- 書類だけで適否を審査するということか。質のよくないガイドが、簡単に登録され

ることが懸念される。

（事務局回答）一定程度のガイドレベルを保つ必要があるため6点の登録要件を設定しており、それを満たさなければ登録されない。よって、簡単に誰でも登録することにはならないと考える。

- ガイドの対象エリアに大杉谷も含むのか。
- （委員補足）大台ヶ原登録ガイドとしてガイドできる範囲は、東大台と西大台のみである。大杉谷は登山のレベルが異なるため範囲には含めていない。
- （事務局）今後ガイドテキストを作成することとしており、本委員会の委員にも協力を頂きたい。
- 奈良県の子供で大台ヶ原へ行ったことのある者は少ないと思う。夏休み期間中に子供たちが参加できる自然学習プログラムがあってもよい。

（３）大台ヶ原自然再生事業における平成 29 年度業務実施計画（案）

資料 3：「大台ヶ原自然再生事業における平成 29 年度業務実施計画（案）」について

【東大台の森林後退箇所における森林更新促進のための環境創出試験について】

- 森林更新促進のための環境創出について、正木峠の上の方では既に疎林化し、種子源があまりないという状況である。過去 15 年程度調査した結果、ササ刈り後や倒木のコケ上に実生は定着していない。こういった場所で倒木更新を期待するのは難しい。
- 森林更新の促進については、まず環境条件の解析を行い、稚樹が残っているところの共通の条件を明らかにするとよい。そうした条件の場所に実生・稚樹の定着環境となる倒木を実証実験的に設置するというステップで進めるとよい。

（事務局）実施計画案は、事務局として今後実施したいと考えていフルメニューなので、予算の付き次第で取捨選択がある。

（４）平成 29 年度大台ヶ原自然再生推進委員会および関係ワーキンググループの開催予定（案）

資料 4：「平成 29 年度大台ヶ原自然再生推進委員会および関係ワーキンググループの開催予定」について

【来年度事業について】

- 来年度については、現地ワーキングのようなものを実施してほしい。実施に際しては、各ワーキングを横断するように声をかけてほしい。
- 来年度の推進委員会では、各ワーキンググループでの議論と結果を取りまとめて説

明するような形でしっかり情報共有してほしい。

【その他、確認事項】

- 本委員会の資料等については、機密性の高い希少種情報等は削除することとして、それ以外は原則公開してよい。公開の判断基準については、将来的に変化するが、環境省の方である程度の基準をつくっておいたほうがよい。